

## 6. 宿根かすみそう

・殺菌剤

FRAC コード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
9	フルピカフロアブル	散布	発病初期	5回以内	

・殺菌剤（参考農薬）

FRAC コード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
3	トリフミン水和剤	散布	発病初期	5回以内	花き類・観葉植物（ばら、きくを除く）
39	ピリカット乳剤	散布	発病初期	6回以内	

・殺虫剤（参考農薬）

IRAC コード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
3	アディオフロアブル	散布	-	6回以内	
6	コロマイト乳剤	散布	-	2回以内	
3	トレボン乳剤	散布	-	6回以内	
21	ピラニカEW	散布	発生初期	1回	花き類・観葉植物（カーネーション、きくを除く）
4	モスピラン顆粒水溶剤	散布	発生初期	5回以内	花き類・観葉植物（ストック、りんどうを除く）
18	ロムダンフロアブル	散布	発生初期	5回以内	花き類・観葉植物（きくを除く）

注1) 使用回数はその薬剤の使用回数を記載しており、この他に薬剤に含まれる成分毎に、総使用回数が決められているので、農薬ラベル等を確認してそれを超えないように注意する。

注2) 薬剤抵抗性の出現を防ぐため、「FRACコード」や「IRACコード」を参考にしながら他系統剤とのローテーション使用を心掛ける（「薬剤抵抗性管理」参照）。

注3) 農薬登録上の作物名が標記の作物名と異なる場合、備考欄に記載した。

病害虫名（F：菌類病、B：細菌病、V：ウイルス病、O：その他の病原体）

病害虫名	防除時期	防 除 方 法	注 意 事 項
疫 病 (F)	生育期間	1. ほ場の排水性向上に努める。 2. 発病株は抜き取り、ほ場外に埋却する。	
立 枯 病 (F)	生育期間	1. 発病ほ場では、土壌消毒を徹底する。 2. 発病を認めた場合は、直ちに罹病株を抜き取り、ほ場外に埋却する。	1. 本病は土壌伝染性の難防除病害である。 2. 本病の病斑部には、淡桃色の菌叢を生じるので、類似する他の立枯性病害と区別が可能である。
灰色かび病 (F)	生育期間	1. 発病葉は伝染源になるので、見つけ次第除去する。 2. 過繁茂にならないよう茎葉を整理し、風通しを良くする。	1. 枯死株をほ場内に放置しない。
うどんこ病 (F)	生育期間	1. 発病を見たら、直ちに罹病部を除去し、薬剤を散布する。 2. フルピカフロアブル 2,000 倍液を散布する。 [参考農薬] 1. ピリカット乳剤 1,000～2,000 倍液、又はトリフミン水和剤 3,000 倍液を散布する。	
茎 枯 病 (F)	生育期間	1. 連作しない。 2. 前作の発病株残渣は、ほ場外に埋却する。	1. 多発ほ場では、3～4年の輪作を行う。
ハダニ類	生育期間	[参考農薬] 1. コロマイト乳剤 1,000～1,500 倍液、又はピラニカEW 2,000 倍液を散布する。	1. 発生初期に防除する。 2. 薬剤抵抗性の発達を回避するため、同一剤を連用しない。

病害虫名	防除時期	防 除 方 法	注 意 事 項
ハダニ類	生育期間		3. コロマイトは蚕毒及び魚毒に、ピラニカは魚毒に特に注意する（特別指導事項参照）。
アブラムシ類	生育期間	[参考農薬] 1. アディオンフロアブル 1,500 倍液、又はモスピラン顆粒水溶剤 4,000 倍液を散布する。	1. アディオンは蚕毒及び魚毒に、モスピランは蚕毒に特に注意する（特別指導事項参照）。
ヨトウムシ	生育期間	[参考農薬] 1. アディオンフロアブル 1,500 倍液、又はトレボン乳剤 2,000 倍液を散布する。	1. アディオン、トレボンは蚕毒及び魚毒に特に注意する（特別指導事項参照）。
シロイチ モジヨトウ	生育期間	[参考農薬] 1. トレボン乳剤、又はロムダンフロアブルの 1,000 倍液を散布する。	1. トレボンは蚕毒及び魚毒に、ロムダンは蚕毒に特に注意する（特別指導事項参照）。